

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Association between Beer, Wine, and Liquor Consumption and Lung Cancer Risk: A Meta-analysis ビール、ワイン、醸造酒飲酒と肺癌のリスクの関連について	
執筆者	
Chun Chao	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev 2007;16:2436-2447	
キーワード	
アルコール、肺癌	
要 旨	
<p>(目的) これまでの疫学研究からビールとワイン、醸造酒では肺癌に及ぼす影響が異なる可能性がある。メタ解析によりビール、ワイン、醸造酒の飲酒が肺癌に及ぼす影響を量-特異ならびに量-反応関係について検討しこれまでの疫学研究の知見をまとめた。</p> <p>(方法) 2007年2月までに公表された論文をPubMedで"alcohol","ethanol","alcoholic","beer","wine","liquor","lung cancer","lung carcinoma","lung incidence","lung mortality"をキーワードに検索し、10の症例対照研究(合計4,391症例と10,324対照)と6のコホート研究(合計453,751人(含む肺癌症例数4,119))についてメタ解析を行った。</p> <p>(結果) 一日当たりの平均ビール摂取量一杯以上は肺癌のリスク上昇と関連を認めた(相対リスク(RR),1.23;95%信頼区間(CI),1.06-1.41)。この関連は性別にかかわらず認めたが統計的有意性は男性でのみ認めた。ビール摂取量と肺癌のリスクはJ型量-反応曲線の関係を認めた。一日あたりの平均ワイン摂取量一杯未満は肺癌のリスクと負の関連を示した(RR,0.77;95% CI,0.59-1.00)。一日あたりの平均ワイン摂取量一杯以上も肺癌のリスクと負の関連を示した(RR,0.78;95% CI,0.60-1.02)。一日あたりの平均醸造酒摂取量一杯以上は男性では肺癌のリスク上昇と関連を示した(RR,1.33;95% CI,1.10-1.62)。しかし女性ではこのような関連は認めなかった。研究によって結果の違いを認めたが研究のデザインや国、性別、調整因子、肺癌組織はこの違いを説明するものではなかった。</p> <p>(結論) このメタ解析によりビールや醸造酒の多量摂取は肺癌のリスク上昇と関連する可能性があるが、一方で中等量のワイン摂取は肺癌のリスクと負の関連を示す可能性がある。さらに交絡因子の調整を改良し、これらの関連を確認するとともに、特に多量摂取域の量-反応関係を確立する必要がある。</p>	